

## 2024年度 群馬パース大学 看護実践教育センター 自己点検・評価

### 【課程名】看護実践教育センター 特定行為研修課程

評価項目	自己点検・評価
教育課程	<p>特定行為研修は、厚生労働省が定める内容及び方法により構成される。本教育課程においてもこれを遵守の上、本学の建学の精神である「Paz（平和）平和で公正な社会の発展、Pessoa（個性）個人の尊厳と自己実現、Assistencia（互助）多様な人々の共存と協調、Zero（熱意）知の創造、への貢献」を達成すべく、研修期間 2024年4月から2025年3月の12か月間に、eラーニングおよび対面授業による共通科目260時間、区分別科目「栄養及び水分管理に係る薬物投与関連」21時間、「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」14.5時間、「動脈血液ガス分析」29.5時間、加えてそれぞれの区分別科目に対する臨地実習計10~15症例の教育課程を設計し、計画通り実施した。</p> <p>教育課程の質を維持するため、対面授業においては毎回、受講生に授業評価アンケートの記入を依頼し、意見や要望、質問などを収集している。これらを次回以降の講義に迅速に反映できる体制を整えており、あわせて受講生へのフィードバックも行っている。2024年度においてもこの仕組みに基づき必要な改善を行った。</p> <p>臨地実習では、十分な症例数を確保するため、1か月半以上の長期にわたる実習期間を確保するなどの配慮を行っている。また、自施設での実習が困難な受講生に対しても、万全な実習環境を提供できるよう、協力施設を十分に確保し、適切な実習体制を整えている。実習終了後には学内での事例発表会を実施し、各自の経験を共有することで、学習の拡大・深化を図っている。</p> <p>当該年度の全学事日程を終えた特定行為研修課程修了予定者5名に対して、授業内容に関するアンケート（5件法）を実施したところ、以下のような結果が得られた。</p> <p><b>【以下の各授業は、学びを得るために役立ちましたか】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① eラーニングによる科目履修：平均 4.60 (±0.49)</li> <li>② 演習：平均 4.40 (±0.80)</li> <li>③ 技術実習：平均 4.40 (±0.80)</li> <li>④ 臨地実習：平均 4.80 (±0.40)</li> <li>⑤ 事例検討会：平均 4.20 (±1.17)</li> </ul> <p>全項目において平均値は4.2以上と高い満足度を示したが、項目⑤「事例検討会」は他項目と比較して相対的に評価が低かった。自由記載欄には、「他の研修生の履修科目と異なる発表内容に対する理解が難しかった」といった意見が寄せられた。特定行為研修では、取得する行為によって専門性が異なるため、相互理解が困難となる場面があると考えられる。しかしながら、高齢社会における看護師の役割拡大に伴い、複数の特定行為の取得が求められる傾向にあることから、今後は内容の共有方法や発表形式に工夫を加えることが課題である。</p> <p>これらのことから、当該教育課程は概ね適切に計画・実施され、受講生の学びに資する成果を上げていると評価できる。一方で、特定行為の履修内容に区分別の特性があることを踏まえた情報共有の工夫や、発表形式の見直しなど、事例検</p>

評価項目	自己点検・評価
	<p>討会の内容がより効果的に理解・活用されるための改善が今後の課題である。</p>
<p>教育成果</p>	<p>受講生の成績は、5段階（A+：90点以上、A：80～89点、B：70～79点、C：60～69点、F：59点以下）で評価している。共通科目群全科目におけるA+評価の割合は24.1%、A評価の割合は48.3%と、A+・A評価を中心とする分布が確認された。区分別科目群においてはA+評価54.8%、A評価45.2%であり、特定行為区分に関わらず学習成果が安定的に得られていることが示唆された。</p> <p>2024年度の全学事日程を終えた特定行為研修課程修了予定の受講生5名に実施したアンケート（5件法）では、以下のような学修成果が得られた。</p> <p>【以下の事項について、習得できたと思いますか】</p> <p>①「栄養及び水分管理に係る薬物投与関連」に関する専門的知識（n=3） 平均 4.67（±0.47）</p> <p>②「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」に関する専門的知識（n=3） 平均 4.67（±0.47）</p> <p>③「動脈血液ガス分析」に関する専門的知識（n=2） 平均 5.00（±0.00）</p> <p>各区分の履修者による評価において、いずれの項目も平均 4.6 を上回っており、一定の学修成果が得られたと判断できる。</p> <p>これらのことから、当該教育課程は、受講生の知識・技術の獲得に効果的な学修プロセスを提供し、一定の成果を挙げたものと評価できる。</p>
<p>受講生支援</p>	<p>本教育課程では、全登校日に教育課程教員によるオフィスアワーを設けており、放課後には講義室を開放することで、受講生が自由に時間を確保して教員に相談できる体制を整えている。また、各講義のシラバスには指定教科書や参考図書を明記し、受講生の自主的な学修を促している。</p> <p>さらに、登校日以外の学習支援としては、eラーニング履修の進行状況を毎週確認し、メールやeラーニングシステムを活用した質問対応、遠隔会議システムを用いた個別指導などを実施し、継続的な学習のサポートを行っている。</p> <p>臨地実習においては、各受講生の実習到達度を把握し、必要に応じて遠隔による相談時間や学内でのフィードバックを実施している。また研修修了後に自施設での活動開始に向けた自己課題の明確化を支援している。</p> <p>2024年度の全学事日程を終えた特定行為研修課程修了予定の受講生5名に実施したアンケート（5件法）では、受講生支援に関連する質問に対して下記の結果が得られた。</p> <p>【本学の研修生への支援体制は役に立ちましたか？(教員や事務の対応など)】 平均 4.60（±0.80）</p> <p>このような取り組みの結果、受講生支援に関する満足度は概ね高く、本教育課程における受講生支援は一定の成果を挙げているものと評価できる。</p>

評価項目	自己点検・評価
施設設備	<p>本教育課程は、新幹線停車駅である高崎駅の隣駅から徒歩 10 分という通学に便利な立地にあり、主要幹線道路にも至近と利便性が高い。本教育課程のフロアは学生が専用で使用できるスペースとなっており、講義室、演習室、各種模型などの教材、休憩用のテラスなどを備えている。徒歩 3 分に本学図書館、書店があり、大学生と同様の条件でそれらの施設を利用できるなど、受講生の学修支援体制が整っている。</p> <p>2024 年度の全学事日程を終えた特定行為研修課程修了予定の受講生 5 名に実施したアンケート（5 件法）では、施設設備に対する満足度が得られた。</p> <p>【本学の施設・設備は学びやすい環境でしたか？】</p> <p>① 授業を受ける環境(教室、演習室など)：平均 4.60 (±0.49)</p> <p>② 授業以外の時間に集中して自習できる環境：平均 4.20(±0.75)</p> <p>③ 学習のための図書や電子ジャーナルへのアクセス：平均 4.00(±0.89)</p> <p>これらの結果から、本教育課程の施設・設備は、受講生にとって学びやすい環境を提供しており、一定の満足度が得られていると評価できる。</p> <p>一方で、項目③の評価が相対的に最も低く、自由記載欄には、図書館の開館時間の延長要望や、電子ジャーナルへのアクセス時に発生したシステムエラー等が報告された。今後は、こうした受講生の声を図書館や情報システム担当と共有し、施設設備の利便性やアクセス性向上に努めていくことが課題である。</p>
広報活動と受講生確保の状況	<p>本教育課程のリーフレットを制作し、全国の医療機関、関東近県訪問看護ステーション、関東近県老人保健施設、北海道・東北・関東甲信越の看護協会に送付している（約 1600 施設）。加えて、本学の広報担当者が臨地実習施設や修了生の勤務先およびその周辺地域の病院等を訪問して受講者募集を行っている。また、当センターが 2022 年度まで開講していた認定看護師教育課程の A 課程（特定行為研修を含まない）卒業生が受講しやすいように、2024 年度は修了生合同研修会で特定行為をトピックスに講演を行った。</p> <p>本教育課程のホームページでは、教育課程の概要、受講者選抜試験等の情報を整理し、閲覧しやすい環境を整備して公開している。</p> <p>2024 年度は受講生 5 名で定員を満たしたが、2025 年度受講者は受講生 1 名となり定員を満たすことができなかった。引き続き、多くの方に特定行為研修を知っていただけるよう、リーフレットやチラシの作成、ホームページの更新に努めるとともに、リーフレット等の送付先や直接の訪問先を見直し、受講生確保を図る予定である。</p>